

入選 広島県 伊藤 恵美子 様 (60代 女性)

私には85歳になる母がいます。盆や正月に子供や孫が集まると必ず「保険料をきちんと払っているのか?」「大事な保険料だから払うんだよ」と心配げに皆に尋ねます。「払っているから安心しんさい」の返事を聞くと安心したかのよう
に、小さくなった背中を丸めてうなずきながらほほえんでいます。

今は年金をいただくおかげで、だれにもお金の迷惑をかけずに暮していますが、若い時はずい分苦勞をしていました。病弱で入退院を繰り返す夫の看病と義母の看病。さらに娘二人の学費の為に男にまじって作業員をしていました。毎日毎日、どろまみれになりながら働いていました。

家はとても貧しくて、何とか高校は行かせてもらいましたが、修学旅行は親の苦勞を見ているだけにあきらめました。そんな生活の中でも家族のみんながそろっているのも母も頑張れたのだと思います。

だけど、父親が亡くなると急に頑張ってはりつめていた糸が突然切れたのか、母に異変が起きました。夜中にうなったり、いきなり車道に出て「死にたい」と言いだしたのです。そんな母を妹と泣きながら必死で止めました。子供心にわかりました。義母と娘の事を考えると、この先どうしたらと思う不安や恐怖がおそってきたのだと思います。

そんな時、母を救ってくれたのが遺族年金でした。もちろん父がきちんと保険料を払っていてくれたおかげです。母はその時のありがたさを、身をもって体験しているからこそ、毎日毎日感謝しています。だからこそ、会うたびにしつこいように私たちに確かめるのです。「保険料を払ってこそ年金」だと言う事を。

今の若い人に、年金について理解せよと言う事は、無理かもしれませんが、ぜひ年金制度に対する理解を深めていただきたいと思います。人は知らず知らずのうちに歳を取っていきます。後になって「しまった!!」と気付いても遅いのです。実際、私の回りにも何人かいます。年金受給者になって後悔しても遅いのです。若い時から国民の義務として払い続けてこそ年金です。年を取って収入がな

い生活がどれほど不安でどれほど辛い事なのか若い人には想像ができないでしょう。

年を取ってから受け取るお金と書いて「年金」。公的年金制度には老齢年金・障害年金・遺族年金など、国民としての「支え合う心」が込められている事を知ってもらふ為に「年金のシステム」を親から子へ、子から孫へ伝えてゆくのが今の私の役目だと思っています。私にとって年金は「人生のお守り」です。